

令和7年度第1回 四万十市総合計画審議会 会議録

- 日 時 令和7年8月4日（月） 10:01～12:03
- 場 所 四万十市役所本庁舎6階 議員協議会室
- 出席者 委員30名のうち出席21名
推進本部員17名、事務局2名、委託業者2名 ※別紙：出席者名簿添付

○配布資料

会議次第

- 【資料1】四万十市総合計画策定体制
- 【資料2】四万十市総合計画策定スケジュール
- 【資料3】四万十市総合計画の総括
- 【資料4】（仮称）第2期四万十市総合計画（素案）
（参考1）四万十市総合計画審議会委員名簿
（参考2）四万十市総合計画審議会設置条例
（参考3）四万十市総合計画審議会運営規則

<結果概要>

- 1 開会
企画広報課長
 - 2 市長あいさつ
山下市長
 - 3 委員の紹介
委員及び職員の自己紹介
会議成立報告
 - 4 会長及び副会長の選出
会長：岡村委員 副会長：佐田委員 副会長：濱田委員
を選出し、承認される。
 - 5 四万十市総合計画の諮問
山下市長から岡村会長へ諮問書を手交
 - 6 議事
(1) 報告事項
①策定体制及び策定スケジュール等について
・事務局説明
資料1、資料2をもとに、策定体制及び策定スケジュール等について説明
- 【質疑等】
特になし
- ②現総合計画の総括及び市民意識等基礎調査・分析結果について
・事務局説明
資料3及び資料4の15～18ページをもとに、現総合計画の総括及び市民意識等基礎調査・分析

結果について説明

【質疑等】

会 長 : 総括のところ、結構厳しい評価。目標を大きく下回るはあるが目標を大きく上回るがない。評価には厳しい目線がいきがちで、もちろんそういう目線は必要ですが、進んでいる部分にも注目すべきと思います。

一方で、厳しい意見にはなりますけど、評価 ABC をもって、概ね順調と言うのか。B を概ね目標達成と言っている以上、AB で概ね順調に推移というべきではないかと思います。産業分野は、目標達成の部分で、厳しい目があってもいいのではと思いますし、そこにこれから力を入れていくというのも一つの手ではないかと思いつつ総括を拝見していました。ぜひこれからの計画の中では、審議会としては計画の策定だけですが、進捗管理、PDCA をしっかりとしていただきたいと思います。

同じように、アンケート結果で、分野別のところ 17 ページを拝見して、産業振興の分野で一つも満足がない。先ほどの進捗のところなんかは結構連動していて、様々な分野の中でも産業については、まだまだやれる余地がたくさんあるのではないかと感じたところでした。

(2) 協議事項

① (仮称) 第 2 期四万十市総合計画 (素案) について

・事務局説明

資料 4 をもとに、(仮称) 第 2 期四万十市総合計画 (素案) の序論、基本構想部分について説明

【質疑等】

委 員 : 財政特性の説明で、財政力指数だけを取り上げています。知りたいのは、今後総合計画を策定するにあたり、どのぐらい財政的にゆとりがあるのか、自由に政策的にお金を使えるのか。財政力指数は、市にどのぐらい財政力があるかということです。例えば公債費比率がどうなっているとか、借金が多ければ財政力が幾らあったとしても、自由に使えるお金がないわけだから、どのような事業をしたいとか、そんな議論をする意味はないと思うので、総合計画で財政特性というものを出すのであれば委員の我々に対しては、自由に使えるお金がどのくらいありますよというものを出示していただかないと、どこまで言っているのかもわからない。

それから、12 ページの土地利用特性について、市全体のことを説明しています。市全体の数値も大事ですが、我々が総合計画の中で論議をしたいのは、狭い範囲の地域の中でどうなっているのかという問題です。例えば四万十市の都市的機能というのは旧中村町内に集中しています。だから公共下水道は、ここに整備しています。ところが今、市街地ができてるのは具同、東山地区です。ここに下水道はありません。旧中村町内は人口がどんどん減って、空洞化してるわけです。過去に、すごいお金をかけて都市的機能は、この旧市街地に集中をし

てきたのに、その地域の人口は減り、具同、東山地区の方が都市的機能を求められるという具合になってきている。このことから土地の利用というのはすごく大事だと思っています。こういう土地の利用特性というものをもっとシビアに評価しないと、市全体で山林が幾らあるとかという話を出しても、なかなか議論が難しいと思います。かつては、総合計画法があり総合計画で一番重要なことは土地の利用計画。つまり、その土地をどのように使うのか、その土地の利用計画がすべての総合計画の基礎だった。それは具同とか東山とか、そういう単位の土地の利用計画で、施設をどこに整備するか、下水道を持っていく道路を作るとか、土地の利用計画をもとにしていた。その土地の利用計画的なものが今回の素案にはない。

事務局： 財政の状況がどうなっているのか審議会で議論する上での判断材料の一つとして、この計画に他の公債比率等すべて載せるというのは困難と思いますが、審議会で審議する資料として、こういったものが出せるのか次回に向けて検討させていただきます。或いはそういった指標以外に、財政の収支計画というものもありますので、それも含め、次の審議会で資料の工夫はしたいと思います。

それから土地利用の関係として、素案にはマクロ的なことしか書いておりませんが、市の個別計画、立地適正化計画であったり、都市計画マスタープランであったり、そういったものの中から、今の市の計画というものができるだけ委員の皆さん市民の皆さんに、わかりやすいように示せるのか、そこも工夫して総合計画でお示しするもの、資料としてお出しできるものを、さび分けしながら、次回に向けて検討させていただきます。

委員： 人口減少が急激に進んでいる。中村はまだ都市としての機能があると思うが、西土佐ではどんどん人が減っている。そういったところを集落として、コミュニティとしてどう維持していくかということを計画に盛り込んでいただきたい。江川崎と中村はバイパスも通って交通の便も良くなると思う。口屋内とか黒尊川流域はもっと人が減っていくと思うが、広大な中山間地域をどうしていくのか。8年後にはほとんど人がいなくなるのではないか。現実として人口減少がどこまで進んでいるのか調べたうえでの計画にしたほうがいいのではないかと思います。

事務局： ただいまのご意見につきましては、次の審議会からご審議いただく基本計画の部分になってくると思います。中山間振興について、しっかり位置付けて、こういったことに取り組んでいくかお示しさせていただきますのでよろしく願います。

委員： 国全体が、少子高齢化で人口減少問題に直面する中で、例えば外国人材を入れることは計画に入るのか。入れるとなると、外国人の住まいやコミュニティの問題があると思います。今回の計画素案を聞きながら、私は移住してきましたのですが、今、移住で人を増やすのは難しいと思っています。若者はライフスタイル的に縛られるのが嫌いで、でもここがすごく好きという言葉もたくさんいた

だくので、移住よりは関係人口だと思います。その中で、どうやって働き手を増やすかを考えると、外国しかない、例えば観光業界の方とか、医療福祉関係の方とか、実際、外国の方がどんな感じで入ってどういったところで苦労されてるとかお聞きできればと思います。

委員：観光業の方で個別にネパールの方とか、来年からはミャンマーの方2名、今4名の外国の方が来る。2名は今働いてますし2名は今後来るようになってます。個別にベトナムとか台湾とかあちこちに日本人学校とかに行き、きてもらうようなことはしてますけど、それから中小企業中央会さんの方で、いろんな国にアテンドしてもらって、来てもらうようなことはしております。

事務局：本市に限らず、これから先の将来を考えるにあたって人口減少は重要課題になると考えておりますので、そういった視点につきましても考慮した上で、計画策定を行って参りたいと考えております。

会長：関連して基本理念、将来像、まちづくりの視点や課題、時代の潮流でも、圧倒的に国際化の視点が足りないと思えました。人材についても、輸出についても、インバウンドについても、今や海外のことを切り離してはやっていけない。非常に重要な視点として、地域の国際化、載せるべきという気はしています。

委員：この審議会でベクトルを合わせした方がいいかなというところでの意見として聞いていただければと思います。まず1点目が、先ほどから上がっている人口減少、少子高齢化という事実は、国も含めて、もう20年前から分かってたことです。なので今ここから取り組むことではなくて、20年前にわかってたことをそのままにやってきたから、今の問題が起きてるので、今からの事としてとらえるとまた同じ失敗を繰り返します。もうラスト8年。この8年を逃したら自然縮小か急激な縮小しか待っていないということを、我々は覚悟しないといけない。この20年失敗してるのに普通のやり方でうまくできますかという厳しい目を持って取り組まない限りは絶対に上手くいかない。耳ざわりのいい言葉選びでやるような施策であれば絶対に失敗する。国ですらそうなっています。民間はそれがわかってたので、いろんな創意工夫、先ほど国際化も含めて、市場も人材も国際化したことで、過去最高益を出してるわけです。日本という市場はシュリンクしてるのに、上場企業は過去最高益を出してる。この20年間で最適化を繰り返してきてます。今からではなく、20年失敗してきたことを起こさないために何ができるかを考えないと、審議会ですらそういう目線を持って、意見を出していかないといけないということが一つ目です。

二つ目がすごく大事だと思っています。先ほどから出てる症状というのは、日本全体で起きていることです。今、日本全国に自治体が約1,750あって、人口が増加しているところが1%程度。残りの99%は全く同じ状況でどこも抜け出せていない状態です。一部、都城市のようなふるさと納税で勝ち組に入ってる場所は、先ほど宮本委員がおっしゃった資金が潤沢にあるので、お金でいろんな設備投資をして、人を呼び込むことができています。川で例えるならば四

万十川の本流が、汚れ切ってる中で、支流の小さいところだけ綺麗にすることはできないわけです。根本的に勝ち残っていくために何が必要かということ、この審議会として考えなければいけない。その一番のポイントは差別化になります。地域として差別化ができなければ、人も、企業も集まらないし、観光客も来ない。どうすれば差別化できるかっていうことを考えないと、先ほどの外国人の話も、外国人は都市部では20年以上前から取り組んでいて、今何が起きているかというところと地方に外国人はこない。日本にすら外国人はこなくなっています。だから差別化できていないと、外国の人たちも来てくれない。

なので、過去の20年失敗してきたことをどうすればうまくできるのかといった視点と、どう差別化をすれば選ばれるかという差別化のポイントを目線に持たない限りは、聞こえのいいことばかり進んでキャッチフレーズばかり進化して、中身は全然変わってないということになります。要は差別化ということは絞込まないと差別化できない。あれもこれもやってたら、差別化にはならない。特に四万十市はどうしても地理的に交通の便の悪さというのがあります。ただ、逆にその悪さが武器になるやり方もあります。なのでそういったことを、皆さんで同じ目線を持って取り組むと、よりよい意見交換になるかなと思いますのでお伝えさせていただきました。

会 長 : 差別化と、20年を振り返り、反省しながら次の視点を持って欲しいということで、この点については今後基本構想、基本計画を作る上で踏まえていただければと思います。

委 員 : 人口減少問題として、少子化対策に取り組むべき。子どもを産みやすい、産みたいと思う社会をどう作っていくか。市町村によっては子どもが増えているところもあると聞いているので、参考にしながら、いかにして四万十市として子どもを増やしていくか。外国人を増やしても、結局日本人がいなければ駄目だと思う。しっかり家庭を持って子どもを産めるような、そういう施策展開をする必要があると思います。

会 長 : 沖縄では人口増え続けてますね。子どもが増えるというのももちろんそうだし外から人も来る。そういう魅力ある地域になっていくということは大変重要なことだと思います。

委 員 : 感想といたしまして、デジタル化等により、この10年、ものすごく変わってきたと思います。それに対して、8年という期間はすごく長いなと思いました。もっとスピーディーに行う必要があること、大事な事柄ではないのかなと思いました。あと、これまでの施策についての総括がありましたが、評価基準が低いような気がします。よりよい四万十市にできるのではないかという感じで、もう少し評価基準を上げた目線、厳しい目線で、この総合計画審議委員会でも上げていけたらと思いました。

委 員 : 18ページのアンケート結果で「重点的に取り組むべき施策」として、「安全安心な暮らしの確保」が最も割合が高くなっています。15ページの四万十市の住み

やすさを感じている人の割合が減ってきていることにリンクしてるかもしれないと思いました。安心安全な暮らしができるような地域を造って初めて、地域住民の方が住みやすくなる。山崎委員も口屋内の現状をお話されてましたけれど、口屋内という場所は、すごく医療機関から遠い場所です。救急車が着くのに時間がかかる、ドクターヘリを降ろすにも、場所が限られている。宮本委員もおっしゃってましたけど、住む地域が今、具同とか東山が増えてきているというのは、何かしらの理由が隠れてると思います。安心安全、子どもの教育、災害に対する防災体制、そういうニーズが隠れていて、結果として生まれてきている。それを把握できたらいいなと思います。このアンケート結果から市民が今一番興味を持っているのは安心安全という部分としましたが、基本理念のところに反映されていないので、審議会として前面に押し出していいのではないかと思います。住民の方が興味があると返してきてくれるものをレスポンスとして返してあげることで、アンケートの回答率が増えてくるとか、ニーズが拾いやすくなるのではないかと感じました。

中委員もおっしゃってた差別化という部分で、具体的な話になるので、基本理念から外れるかもしれませんが、国際化の話でいうと、今、四国 88ヶ所の巡礼者で外国人が多いと思います。何故かと言うとスペインで、四国 88ヶ所を回る少女をモデルにしたドラマか、YouTube があってすごく流行ったということがあります。ヨーロッパの方は巡礼のことにすごく興味があって、外国人が増えています。差別化で、そういう方たちに対するサービスを、四万十市が生み出せていったら、その方たちが SNS で発信して、こっちが構えなくても、そういうストロングポイントは出てくるかもしれないと思いました。岩間の沈下橋も、すごく外国の方、台湾の方が多かったと思うんですけど、それは遅咲きのヒマワリが再放送台湾でされて、それがすごく流行って、何年前かに、台湾の方が来てましたけど、何故こういう現象が起きているのかを掘り起こすことができたと思います。

委員：提案として、計画策定にあたり住民同士のコミュニケーションの場を作れないか。例えば広報、今、一方的な情報発信になってますが、1 ページか 2 ページぐらい自由トークとか、アイデア募集とか企画できないでしょうか。

事務局：市民の方とディスカッションという意味では、広報は使いにくいかと思います。今のご意見の中での自由投稿については、過去、やったことがありますので、再度検討したいと思います。

委員：いろいろな業種の計画があると思いますが、それぞれの業種に対して意見交換等をする予定はありますか。前回の計画策定時にも、観光にかなり関わっていたつもりでしたが、全然話がないまま計画ができていたので、業界の人たちとの意見交換であったり、こういった計画を作っているといった情報発信をお願いしたいと思います。この基本理念や将来像、これはこれですばらしいものだと思いますが、この後の基本計画部分ではそれなりに話しをさせてもらいたい

こともありますので、そういう機会をぜひお願いしたいです。

事務局：各分野のご意見についてですが、今後、基本計画部分を策定するにあたり各課で内容を検討していくこととなりますので、その段階でご意見等いただければと考えているところです。意見交換会として開催するかにつきましては、分野ごとのプロセスがまちまちだと思います。観光面であれば観光商工課の方から何らかのアプローチがあるかと思います。

委員：パブリックコメントを実施予定ということで、最近いろいろな計画でパブリックコメントが機能してない状態になってると思いますので、実施にあたり工夫をしていただきたい。また、この審議会においても、事務局の意見を聞きたい場合もありますので、開催後1週間から10日くらい置いて、文書で意見を出せるような形にしていただけたらありがたいです。

会長：基本理念と将来像を見た時に、これはいつでも書けることだと思いました。今、これかなと、例えば、何か変わるイメージができなかった。もう少し新しさのようなものや、若者が出てきていいのではないかという気がしています。

委員：総合計画はどうしても、総花的な、あれもこれも入れた計画にならざるおえないという宿命があります。総合計画推進法という法律があるときには、総合計画に記載がないとその路線の補助金はつかないということでしたが、今はそうではありません。そうしますとさっき中委員が言われたように、もっとシビアに重点を決めないと、前は向けませんと、その方針で委員の皆さんが行くということならば3回の審議会では審議できないと思います。ですから少なくとももう1回、会の回数を増やしていただきたいと、事務局をお願いをしたいと思います。

委員：少子化対策、子どもを増やす政策を実施する必要があると思います。優先順位をつけて、少子化対策にどれだけお金をいられられるか。総合計画は、前回11年間。今回の計画は8年。このような短い期間では少子化問題一つ解決するのも不可能だと思います。全部を一度に8年でやろうとしても、なかなかできん、予算もないはずです。しかしながら総合計画では、我々にも夢が持てるように、そういう夢を、計画の中に言葉で入れなければできないと思います。少子化対策、これにまず力を入れてやっていただくことにご理解いただきたいと思います。

会長：今いただいたご意見ですが、一つ目は従来の総合計画よりも少し踏み込んで、重点的なところを示してみてもどうかということ。また、思い切った施策を考えてみるというところで、今後事務局の方で案を考えていただく時の後押しになればというふうに思います。それから、その中の一つに少子化対策があるのでないかということだと思います。

もう1点は議論する場を増やして欲しいというご意見でした。スケジュールが限られる中だと思いますが、皆さんで工夫しながら、やっていければと思います。

す。時間になりましたので、以上で終了させていただければと思います。ぜひ新しい四万十市の未来に向けた挑戦の計画になればと思いますので、ぜひ皆さんで、良いものつくれたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

7 その他

事務局：先ほど会の回数を増やしてはというご意見をいただきました。次回の会ですが、今後基本計画案策定に2か月程度は必要と考えておりますので、10月中旬ごろ、会長、副会長の日程を確認させていただいた上で、皆様に、日程をご周知させていただきたいと思います。その後、可能な限り、会議の開催を増やすように検討していきたいと考えております。

委員：会議の開催を昼からにできないか。

事務局：本日欠席されてる委員の方の中にも午前の都合が悪い方がいらっしゃいますので、午後開催を基本にさせていただきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

8 閉会

別紙

令和7年度第1回 四万十市総合計画審議会 出席委員名簿

◎：会長、○：副会長

区分	所属	氏名	備考
公共的団体等に属する者	(一社) 四万十市観光協会	小松 昭二	
公共的団体等に属する者	四万十川漁業協同組合連合会	金谷 光人	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	下田漁業協同組合	藤田 豊作	
公共的団体等に属する者	高知県農業協同組合	竹吉 功	
公共的団体等に属する者	中村市森林組合	宮本 昌博	
公共的団体等に属する者	西土佐村森林組合	山崎 一夫	
公共的団体等に属する者	中村商工会議所	○ 佐田 博	
公共的団体等に属する者	四万十市西土佐商工会	上村 賢介	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	(一社) 中村青年会議所	野元 亮佑	
公共的団体等に属する者	四万十市商店街振興組合連合会	土居 愛明	
公共的団体等に属する者	四万十市自主防災会連合会	杉本 義和	
公共的団体等に属する者	四万十市消防団	遠近 永年	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	四万十市区長会	○ 濱田 正也	
公共的団体等に属する者	高知県地球温暖化防止活動推進委員	滝石 典子	
公共的団体等に属する者	四万十市社会福祉協議会	大林 郁男	
公共的団体等に属する者	四万十市中村地区民生児童委員協議会	浜田 精一	
公共的団体等に属する者	四万十市西土佐地区民生児童委員協議会	太宰 政博	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	四万十市医師会	小原 長生	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	四万十市保育所PTA連合会	西内 洋勝	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	子ども・子育て会議 (NPO 法人スマイルはたっこ)	久保 美保	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	四万十市小中学校PTA連合会	平野 祥智	
公共的団体等に属する者	四万十わかば更生保護女性会	西 美和	
公共的団体等に属する者	四万十人権擁護委員協議会	助村 通俊	
公共的団体等に属する者	男女共同参画推進協議会	清水 奈緒美	〈欠席〉
公共的団体等に属する者	四万十市文化協会	谷田 洋子	〈欠席〉
学識経験を有する者及び市民	有識者	◎ 岡村 健志	
学識経験を有する者及び市民	有識者	須山 美樹	
学識経験を有する者及び市民	有識者	中 洋介	
学識経験を有する者及び市民	一般公募市民	金澤 ゆず香	
学識経験を有する者及び市民	一般公募市民	上岡 三郎太	

令和7年度第1回 四万十市総合計画審議会 推進本部員出席者名簿

〈本部員〉

職	氏名	備考
西土佐総合支所長兼地域企画課長	佐川 徳和	
総務課長	山崎 寿幸	
地震防災課長	安岡 栄治	
企画広報課長	武田 安仁	事務局長
財政課長	竹田 哲也	
税務課長	山崎 行伸	
環境生活課長	横山 昌之	
子育て支援課長	中脇 弘樹	
健康推進課長	竹本 美佳	
高齢者支援課長	武内 俊治	
観光商工課長	遠近 由幸	
農林水産課長	吉田 貴浩	
まちづくり課長	津野 智宏	
上下水道課長	岡村 速人	
福祉事務所長	村松 大	〈代理出席〉
市民病院事務局長	金子 雅紀	
産業建設課長	竹本 志郎	

〈事務局〉

企画広報課長補佐	宇都宮 朋彦	
企画調整係長	田中 佑典	
株式会社 GPMO		